

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 中間評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	嬉野市立轟小学校
-----	----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 最終評価において、全ての項目で成果指標を達成することができた。引き続き、取組の充実に努める。 将来の夢や目標をもつ児童の育成に向けて、更なる取組の充実と家庭との連携強化を図る。 児童が、地域に貢献できる取組を検討し、実践化を図る。
------------------	---

2 学校教育目標	夢をもち、ふるさとを愛し、生き生きと学ぶ轟っ子の育成 ～高い志をもつ、持続可能な社会の創り手とするために～
----------	---

3 本年度の重点目標	①主体的な学びと豊かな表現力の育成 ②心に響く生徒指導及び特別支援教育の充実 ③健康で、逞しい体づくり ④地域コミュニティとの連携による社会に開かれた教育課程の推進 ⑤ICT利活用教育の充実
------------	---

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師は80%だった。定期的にマイプランを確認し、取組の促進を図る。			◎学力向上対策コーディネーター ・研究主任 ・しっかり学ぶ子PJ
	○根拠や理由を明確にして、自分の考えを書いたり話したりする能力の育成を図る。	○「友達と話し合う活動を通して、自分の考えの根拠や理由がはっきりした」と回答した児童の割合90%以上	・様々な教科において意図的、計画的な話し合う活動の場の設定や考えを発表したり書いたりすることができるような支援を行う。	B	・「友達と話し合うことで、自分の考えの理由がはっきりわかりますか。」というアンケートで肯定的な回答をした児童が87.6%であった。 ・掲示物「目指す対話の姿」を実態に応じて作成し直し、話し合いの仕方を継続して指導していく。			◎学力向上対策コーディネーター ・研究主任 ・しっかり学ぶ子PJ
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○心に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上	・道徳教育や体験学習、奉仕体験などの様々な活動や毎月の生徒指導の話などを通し、児童の心に響く指導の充実を図る。 ・自己の成長や高まりを実感できるようなかかわりや声かけ(教師の評価)を行う。	B	・心に関するアンケート2項目(「友達となかよく生活する」「道徳の学習で自分の生活を振り返る」)はそれぞれ96.2%、92.8%だったが、90%に満たない学年もあった。今後も自分の成長や高まりを実感できるような教師による承認・称賛・励ましを継続し、挨拶・返事についても意識して取り組ませたい。			◎道徳教育推進教師 ・いたわる心PJ
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について、組織的対応ができていないと回答した教師90%以上	・いじめ問題に関する体制を明確にし、報告・連絡・相談を徹底する。 ・必要に応じて、体制の見直しを行い、結果を保護者にも周知する。	A	・「いじめ防止等について、組織的対応ができていない」と答えた教師は、100%だった。引き続き疑わしい事案や支援を要する児童の情報などの連絡・報告・相談を密にし、組織的対応を徹底して行く。			◎生徒指導主任 ・いたわる心PJ
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上	・学校栄養士と担任による食育授業、食生活改善推進協議会と連携した授業や、食育月間の取組の充実を図る。 ・学校での取組を学校だより、学校HP、食育だより、コミュニティ通信等で積極的に発信する。	A	・「健康に食事は大切である」と考えている児童は93%であった。 ・今後も、学校栄養士と担任による食育の授業を全学年実施していく。また、引き続き学校での取り組みをHPや通信等で発信していく。			◎体育主任 ・バランス体PJ
	○運動習慣の改善や定着化	○授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童80%以上	・週に1回、全校や学級で外で遊ぶ日を設定し、運動や遊びに親しみをもって取り組めるようにする。	B	・運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童は79%であった。体育委員会の児童を中心として全校外遊びの日を設け、様々な遊びに触れさせていく。引き続き、学級でもみんなで遊ぶ日を作り、体を動かす楽しさを味わわせる。			◎体育主任 ・バランス体PJ
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・定時退勤日(毎週金曜日)を確実に実施し、18時に施錠する。 ・学校行事や日々の教育活動を随時見直し、削減、縮小できることについて検討し、改善を図る。	A	・全職員の時間外勤務時間の平均は32時間で、昨年度より2時間減少し、45時間を遵守することができた。ただ、個人差が大きく、今後も、これまでの取組と日々の声かけ等を継続して行い業務効率化の推進を図っていく。			管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		主な担当者
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
○小中連携	○小中連携による学力向上の推進	○中学校区で定めた学力向上の取組を達成した教師90%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3」を活用した、わかる授業の確実な実施を図る。 ・意図的、計画的に「書く活動」と「話し合う活動」の場を設定する。	A	・小中学校区で定めた学力向上の取組を達成した教師は100%であり、小中連携研修会や他校の授業研究会を通して、今後も共通した実践に取り組んでいく。			◎研究主任 ◎学力向上対策コーディネーター
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が前年度より向上した教員90%以上	・特別支援教育に関する研修会(事例検討など)の実施(8月) ・ケース会議の開催(随時)、気になる児童の情報共有(毎週火曜日)と共通実践	A	・夏休みの研修で特別支援教育に関する事例検討会を全職員で行った。 ・気になる児童の情報共有を毎週火曜日に行い、全職員で支援方法を統一させた。またケース会議も適宜行い、個々に合った支援方法を検討した。			◎教育相談 ・特別支援教育担当
○保護者、地域との連携	○コミュニティ・スクールとしての開かれた学校づくり	○保護者アンケートで「開かれた学校づくり」の肯定的な回答を90%以上に上げる。	・保護者や地域コミュニティと連携した教育活動の様子を、学校HP、学校・学級だより、コミュニティ・スクール通信等で積極的に発信する。	A	・コロナ禍ではあったが、できる範囲で保護者や地域の方に学校の教育活動に関わっていただき、児童の学びを深めることができた。今後は、クリーン作戦等児童が地域に貢献できる活動を推進していく。			管理職
○ICT利活用教育の充実	○ICTを効果的に活用した教育活動の充実	○ICTに関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童80%以上	・ICT教育に関わる個人研修を年に一回以上実施する。 ・ICTの活用方法について、実践事例などを共有する研修を定期的に行い、指導の充実を図る。	A	・「タブレット端末を使うことで、学習内容がよく分かりますか」というアンケートに対して、肯定的な回答をした児童が91.3%であった。 ・定期的にタブレット研修会を行ったり、タブレット端末を活用した研究授業を行ったりすることで、職員の意識が向上した。			◎情報教育推進リーダー ・しっかり学ぶ子PJ

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------